

日本臨床環境医学会・環境過敏症分科会シンポジウム

疫学・臨床・社会の三次元からみた環境過敏症研究 update
～ 病態解明、診療現場の実態、診断と治療の最前線 ～

日時：2025 年 6 月 22 日（日）

10:00-12:30

場所：東京科学大学大岡山キャンパス西 9 号館デジタル多目的ホール

主催：日本臨床環境医学会・環境過敏症分科会

後援：室内環境学会・環境過敏症分科会、生活環境と健康研究会

企画・司会進行：北條祥子、黒岩義之、渡井健太郎、水越厚史

【環境過敏症分科会】

環境過敏症（以下、本症）とは通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（室内空気汚染物質、受動喫煙、医薬品、殺虫剤、芳香剤、柔軟剤等）、生物的要因（カビ、ダニ、花粉、ウイルス等）、物理的要因（音、光、地震、低気圧、パソコン・スマホ・MRI 装置等からの電磁場等）により、多器官に由来する多彩な症状が重層的に現れる健康障害の総称である。本症はアレルギー疾患と密接に関係しているが、その病態の全貌は未だ科学的に解明されていない。環境過敏症分科会（以下、本分科会）は国内外の研究者と共同研究や情報交換を行いながら、本症の病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすことを目的に、2018 年 6 月に設立された。現在、本分科会はマルチ異分野からなる研究者 48 名のメンバーで構成されており、活動を継続している。

【本シンポジウムの開催趣旨】

近年、世界的に本症と幼児・児童生徒の登園登校障害や行動障害との関係が報告され、注目され始めている。日本でも香料過敏（香害）など化学物質過敏症状で不登校になる児童生徒の増加、また、デジタル教科書導入後に電磁過敏症状で不登校となる児童生徒の増加が報告され始めているが、その実態は不明である。日本では欧米諸国と比べると、本症に対する医療関係者・研究者・一般市民の認知度が低く、本症を診断・治療している医療機関は非常に少ない。そこで、本分科会では、昨年度から、子ども達の本症患者の実態を解明すると同時に、本症に関する認知度を高めるために、「子どもの香害および環境過敏症状に関する全国規模の実態調査」を開始している。

本シンポジウムは本症に対する認知度を上げていただく目的で企画された。最初に子どもを含めた本症の疫学調査の最前線について、4 名の研究者から話題提供をいただき、次に本症の診断治療領域の第一人者の坂部貢先生（日本臨床環境医学会理事長）に基調講演をいただき、次に、本症の診断・治療に第一線で従事している臨床系の医師 5 名に本症の診療現場の実態および今後の展望について話題提供いただき、最後に黒岩先生に総括講演でまとめていただく。

【タイムスケジュール】

- 1. 開会の挨拶** 北條祥子（環境過敏症分科会代表） 10:00-10:03
- 2. 環境過敏症の疫学 update：子どもから成人までのデータ解析** 10:03-10:43
- 1) 永吉雅人（新潟県立看護大学准教授；情報学）：子どもの「香害」と環境過敏症状に関する全国調査の中間報告～香害および化学物質過敏症状・電磁過敏症状に関する地域別結果～
 - 2) 寺田良一（明治大学名誉教授；環境社会学）：子どもの「香害」および環境過敏症状に関する全国調査：香害（香過敏症状）の解析結果
 - 3) 北條祥子（尚絅学院大学名誉教授；環境医学/疫学）：子どもの「香害」および環境過敏症状に関する全国調査：化学物質過敏症状と電磁過敏症状データ解析結果
 - 4) 水越厚史（近畿大学医学部予防医学・行動科学教室准教授；環境医学/疫学）：成人の環境過敏症状に関連する環境因子の調査
- 3. 基調講演** 10:43-11:08
- 5) 坂部 貢（千葉大学予防医学センター特任教授，臨床環境医学）：環境過敏症臨床の源流を求めて
- 4. 環境過敏症の臨床 update：診療現場の実態、診断と治療の最前線** 11:08-12:08
- 6) 小倉英郎（医療法人高幡会大西病院院長；小児科学/臨床環境医学）：化学物質過敏症の小児の現状とその対策
 - 7) 角田和彦（かくたこども&アレルギークリニック院長；臨床環境医学/アレルギー学）：本クリニックの環境過敏症患者の現状と今後の展望
 - 8) 平久美子（東京女子医科大学附属足立医療センター非常勤嘱託；麻酔科学/臨床環境医学/アレルギー学）：香害による神経障害性疼痛を訴える化学物質過敏症患者の治療
 - 9) 近藤哲哉（関西医療大学教授；心療内科学/東洋医学）：環境過敏症患者の生体電位実測と鍼灸治療の有効性
 - 10) 渡井健太郎（近畿大学医学部予防医学・行動科学教室講師，臨床環境医学；臨床環境医学/アレルギー学/呼吸器学）：環境過敏症における神経学的介入の可能性
- 5. 総括討論** 12:08-12:27
- 11) 黒岩義之（帝京大学医学部附属溝口病院脳神経内科客員教授・脳卒中センター長；神経内科学/脳科学）：脳神経内科専門医からみた環境過敏症の臨床像と発症メカニズム：オピニオン
- 6. 閉会の挨拶** 黒岩義之（環境過敏症分科会副代表） 12:27-12:30

註：最後に、参加者全員で写真撮影を行う予定である。